

## 友愛委員会活動の一年を振り返って

友愛委員長 森 勇

友愛委員会は、地域に根付いている「配食サービス」、毎回参加者に楽しんで戴いている「高齢者を囲む会」、また、8月に行っている「暑中お見舞い訪問活動」、など年間を通じて毎月色々な事業を行っています。

これらの事業は、東町の「あやめ会」、新鵜沼台の「あゆみの会」、鵜沼台の「かすみ会」、山崎町の「沙羅の会」の4つのボランティアの方々と、民生委員児童委員が構成メンバーとなっております。



この鵜沼三地区も高齢化率が一段と高くなり、独居・高齢世帯も同様に増加しているため、見守り活動の一環として配食サービスを宅配できるようにボランティア、民生委員の皆さんと色々と議論を重ねましたが、料理室のスペース、宅配時間、また、マンパワー不足などにより宅配食数を増加する事が難しく全ての皆さんの期待に添う事が出来ず、今年も妙案がなく検討課題として積み残してしまいました。



尚、高齢者を囲む会では、久方振りに天候に恵まれ多くの皆様に参加して貰う事が出来、童謡、唱歌などの合唱、また、椅子に座っての健康体操などで楽しんで戴いた後、別室での食事ではボランティアの方々に作って貰った「けんちん汁」をおかわりされるなど和やかな雰囲気の中で終了する事が出来ました。



この事業は、各務原市社会福祉協議会の歳末助け合い配分資金事業の一環として助成を受けているメニュー事業であり、今後ともこの事業が継続して出来る事を願うものであります。

今年は、民生委員制度が創設されて100周年、児童委員法は70周年と言う節目の年に当たり、先人が積み重ねた「人々の幸せのために」と言う強い使命感と情熱を次の方へ引き継ぐと共に、様々な制度や機関に「つなぐ」ことを強く意識して活動を展開して参りたいと思います。

また、今こそ地区社協は地域の担い手として「誰もが笑顔で、安心・安全に暮らせる地域社会づくり」に対する期待が一段と大きくなっており、友愛委員会も地区社協の一員として皆様と協働して、地域福祉活動を積極的に進めて参りたいと思います。

最後に、会長さんを始めボランティアの皆様など多くの方にご支援・ご協力を賜りました事に深く感謝申し上げます。

誠に有難う御座いました。

鵜沼三地区のトレードマークです。



『うっぴい』

# ふれあい

第 88 号 平成 29 年 3 月 15 日

編集・発行 鵜沼第三地区社会福祉協議会

社協のマークです



福祉の心を育てよう

鵜沼第三地区社会福祉協議会 会長 佐野 淳子

日頃より、鵜沼第三地区の皆様にはご理解とご協力をいただきまして厚くお礼を申し上げます。本年度の社協事業活動を開始する時点で不安はありましたが、地域の皆様、役員の皆様や市社協の関係者の方々のご支援のもと、年間計画の活動を無事終える事ができました。ありがとうございました。

様々な活動を通して、いろいろ体験する事ができました。そして積極的に福祉活動されている方との出会いや、他の地区社協会長様との交流により、多くを学ばせて頂きました事を感謝いたしております。

夏休みには、福祉座談会を行い社協への理解を深めて頂き、また 3B 体操では多くの子供たちが参加し楽しく運動ができました。そして、10月には最大イベントの「ふれあいコンサート」は素晴らしい演奏会となり、多くの地域の方たちに来て頂けました。世代を超えて地域の人がつながるのは、社協の理念でもあります。

少子高齢化が本格化し、孤立化が進んでいるのはこの地区でも同様です。地域の人と人とのつながりも希薄な状況となって来ております。そのような中で、配食サービスやボランティアハウスの活動は大変地域に貢献していると思います。人と人がつながり、楽しくおしゃべりをしたり、気軽に話し合える場の提供は

高齢者や一人暮らしの方にとって必要です。各務原市社協が目指す「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」を実現するためには、やはり地域の方ひとり一人の思いやりが一番大切です。お互いに助け合うという気持ちで、若い世代の人もスマホばかり見ていないで、周囲に目を向け、障がい者や困っている人がいたら見守ってあげたり声かけしてあげられる社会になればと願っています。

一年交代体制の鵜沼三地区社協において、改善すべき課題は多々ありますが、社協の活動に一人でも多くの方が参加していただき、人と人とのつながりや絆が持てる地域になるのを願うばかりです。この活動を通して、つながりの大切さを改めて感じました。一年間、本当にありがとうございました。